

よくあるご質問(FAQ) : Sound Devices MixPre-Series

2020/09/11c 更新

【 御質問 】

[Q: MixPre-Series について](#)

[Q: Basic/Advanced モードについて](#)

[Q: Custom モードについて](#)

[Q: 第二世代 MixPre-II とは？](#)

[Q: MixPre-3\(II\) と MixPre-6\(II\) の違いは？](#)

[Q: MixPre-10\(T/II\) の特色は？](#)

[Q: MixPre の電源について](#)

[Q: オーディオ入力について](#)

[Q: 録音ファイルについて](#)

[Q: WAV ファイルの取り扱いについて](#)

[Q: 録音メディア](#)

[Q: タイムコードについて](#)

[Q: USB ポートについて](#)

[Q: フィジカルコントローラについて](#)

[Q: Bluetooth 通信について](#)

[Q: オーディオインターフェース](#)

[Q: プラグインについて](#)

[Q: AMBISONICS プラグイン](#)

[Q: MIXASSIST プラグイン](#)

[Q: MUSICIAN プラグイン](#)

[Q: NoiseAssist プラグイン](#)

【 回答 】

回答: MixPre-Series について

MixPre-Series は、マイクプリアンプ内蔵のマルチトラック・レコーダーです。第一世代は製造完了しており、現行機種は第二世代 (MixPre-II) です。MixPre シリーズのコンセプトは、2ch ポータブルミキサーの MixPre(製造完了)にあり、フロントパネルのノブ1つでマイクプリ Gain とステレオミックス用 Fader を兼ねていました。第一世代はこのコンセプトにレコーダー機能とコンピュータ・オーディオインターフェースを持たせたもので、第二世代は内部処理を 32bit floating 対応に発展させたものです。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: Basic/Advanced モードについて

MixPre-Series は、MixPre コンセプトに合わせた Basic モードと、より細かな要求に応えるための Advanced モードを選択して製品を御利用いただけます。この派生モードとして、機能カテゴリー別に Basic と Advanced を混在できる Custom モードもあります。工場出荷時設定に戻すと、MixPre-3II, 6II は Basic モードに、MixPre-10II は Advanced モードに設定されます。

「Basic モード」

ビデオグラファーなどオーディオ機材に詳しくない方向けのモードです。L&R ミックストラックしか録音できず、サンプルレートも 48kHz 固定されています。フロントノブはマイク・トリムとフェーダーを兼ねています。

「Advanced モード」

ISO トラック（入力チャンネルごとに独立したオーディオ）を録音でき、フロントノブは L&R ミックスバスへ送るフェーダーとして機能します。マイク・トリムはフロントノブとは独立して調整できる他、サンプルレート、ビット深度、HPF、Limiter などプロフェッショナル・オーディオ・ユーザー向けのパラメータが提供されます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: Custom モードについて

MixPre-Series には、Basic モードと Advanced モードに加えて、機能カテゴリー別に Basic と Advanced を混在できる Custom モードがあります。カテゴリーは、Channel, Gain, Headphone, Record, Metadata, Outputs の 6 種です。

「Channel」

これを Advanced に設定すると、インプットチャンネルの Pan, Low Cut などのパラメータが細くなり、Phase, Delay, Linking オプションが増えます。また、ISO トラックの Solo, Track Arm が使用できます。

「Gain」

これを Advanced に設定すると、インプットチャンネルはフィジカル・ノブと Gain による 2 ステージ・コントロールになり、ISO トラックはプリ・フェーダーレベルで録音されます。また、Limiter オプション (On/Off) が System メニューに追加されます。

「Headphone」

これを Advanced に設定すると、インプットチャンネルに SOLO オプションが追加されます。また、モニターソースのオプション LR Stereo, USB1,2 に加えて、ユーザープリセットが設定できるようになります。

「Record」

これを Advanced に設定すると、L&R Gain, Sample Rate, bit depth, Rec L/R(linking), Pre-roll Time, Rec Trigger, Record Bells オプションが追加され、トラックにネームを入れられるようになります。

「Metadata」

これを Advanced に設定すると、以下の操作が可能となります。 1) テイクの UNDO 2) トラックネーム 3) ファイルのリネーム 4) notes

「Outputs」

これを Advanced に設定すると、Stereo Out (3.5mm ジャック) の機能拡張 (routing, gain) と、Tone オシレータ機能が有効になります。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: 第二世代 MixPre-II とは？

主な違いは、32-bit float 処理に対応、タイムコード・ジェネレータ内蔵、USB ファイルコピー、Limiter パラメータ調整などがあります。第二世代用にリリースされた firmware は、第一世代にも互換性があります。最新の firmware で第一世代 MixPre をアップデートすれば、過去に使用できなかった USB ハブや Pre-roll タイム、MixAssit プラグインなど第二世代と同様の機能が利用できる場合があります。(しかし TC ジェネレータや 32-bit floating は、第一世代のハードが対応していません。)

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: MixPre-3II と MixPre-6II の違いは？**「インプット数」**

MixPre-3II は XLR 入力が 3 つ、最大録音トラック数は 5 です。MixPre-6II は XLR 入力が 4 つ、最大録音トラック数は 8 です。MixPre-6II は、XLR 用に Ch-1~4 の他に補助インプット用チャンネル Ch-5, Ch-6 があります。Ch-5,6 に Aux ステレオ入力を割り当てて、アイソレートトラックとして録音しつつ L&R バスにミックスすることができます。

「スターボタン」

MixPre-6II のフロントパネルには、スターボタンと呼ばれる【*】ボタンにユーザーがショートカット機能を割り当てることができます。デフォルトでは Ch5,6 のチャンネル・プロパティへアクセスできます。その他に、ソロ・ミュート画面へのショートカットや UNDO 機能へのショートカットをスターボタンに割り当てることができます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: MixPre-10(T/II) の特色は？

「電源」

MixPre-10 II は背面のヒロセ DC 電源コネクタに給電する仕様です。（MixPre-3II, 6II のように、USB-C からの電源供給はできません。）

「バランス信号出力」

MixPre-3II, 6II は一眼レフにオーディオ信号を送るための Stereo Out(3.5mm)アンバランス出力しかありませんが、10II は TA3 コネクタによるバランス出力回路も備えます。

「スタートグルスイッチ」

左右に倒して*と**の2つのショートカット機能にアクセスでき、補助入力チャンネル Ch9,10へのアクセス、ソロ・ミュート画面、UNDO 機能に加えて、トーン信号やスレートマイク機能などから自由に割り当てる事ができます。

「タイムコード」

MixPre-II Series は内蔵タイムコード・ジェネレータを持ちます。MixPre-10 II は Timecode 入出力用 BNC コネクタを備えます。

「ワードクロック同期」

MixPre-10II はタイムコード用の IN/OUT の2つの BNC コネクタをそれぞれ別々に WordClock 用 IN/OUT に機能を変更できます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: MixPre の電源について

「単三電池」

MixPre-3II, 6II は単三電池 4 本を装着できるバッテリースレッド MX-4AA が標準で付属します。10II には単三電池 8 本を装着できる MX-8AA が標準で付属します。これら単三型スレッドには、ニッケル水素充電電池かリチウム一次電池が推奨されます。（マンガン電池、アルカリ電池は適しません。）長時間駆動させるには、オプションの MX-LMount か MX-LM1 による Sony L-type リチウムイオン充電電池の御利用をお勧めします。

「外部電源ソース」

MixPre-3II, 6II は USB-C ポートに給電して使用できます。もし USB-C ポートに給電される電圧が足りないときは省電力モードで動作します。（USB-A や HDMI ポートの休止、ファンタム電圧供給チャンネル数が制限されます。）MX-4AA バッテリースレッドを装着しておくトリダンダント電源になるので、録音中に USB-C が停電しても支障ありません。

「MixPre-10II」

MixPre-10II はヒロセ 4pin コネクタに給電して使用できます。（USB-C ポートはデータ通信専用で、給電できません。）

「バッテリースレッド・オプション」

別売の MX-Hirose を、MX-4AA などのバッテリースレッドの代わりに装着すると、ヒロセ 4pin 電源コネクタの無い MixPre-3II,6II でも外部電源から給電可能です。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: オーディオ入力について

「インプットチャンネル」

フェーダーノブが押されると、インプットチャンネルのプロパティがディスプレイに表示されます。ここで、入力タイプ (Mic, Line, Aux, USB)、Pan、Phantom 48V などを設定できます。MixPre II シリーズで XLR コンボジャックを備えているものは、6.3mm プラグを接続することができます。(6.3mm プラグにファンタム 48V はかかりません。)

「Aux 入力」

3.5mm ジャック (Aux/Mic In) にはアンバランスのステレオオーディオ信号を入力できます。AUX 設定を Mic In に設定すると 2.7VDC がプラグに供給され、市販のプラグイン・ステレオマイクロフォンを接続できます。3.5mm ステレオジャックに LTC タイムコード信号を入力する場合は Tip と Grand に結線し、Timecode 設定で Aux TC In に設定してください。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: 録音ファイルについて

MixPre (Audio モード) で録音すると、Poly 形式の WAV ファイルで録音されます。(Musician モードで録音されたオーディオは、Mono 形式の WAV で録音されます。) Poly 形式のファイルが DAW で正常にインポートできない場合は、Sound Devices のウェブページから提供されるフリーソフトの Wave Agent V1.5 (Windows 用と Mac 用があります) を利用して Mono 形式に分割することができます。(注意: Wave Agent V1.5 は 32-bit floating WAV ファイルに対応していません。)

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: WAV ファイルの取り扱いについて

メニューから File Transfer モードを利用すると、USB-C ケーブルで接続されたコンピュータから外部ドライブとして認識され、WAV ファイルをコンピュータへ転送できます。(注意: USB-C ケーブルを接続したときにサンプルレートが変更されてしまう事があります。これは、File Transfer モードより先にオーディオインターフェースとして動作してしまい、コンピュータのサンプルレートに自動的に切り替わるからです。)

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: 録音メディアについて

SD カードは exFAT でフォーマットされますが、1つの WAV ファイルの最大サイズは 4GB です。録音されたファイルのメタデータには exFAT が管理するタイムゾーンも記録されるので、MixPre のシステム時計は時刻設定だけでなくタイムゾーンも正しく設定してください。バックアップメディア (USB-A ポートに接続した USB メモリースティック) はリアルタイム録音されるのではなく、SD カード上の WAV データが逐次コピーされます。また、File Transfer モード時にコンピュータからバックアップメディアにアクセスできません。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: タイムコードについて

MixPre II Series は内蔵タイムコード・ジェネレータ機能を持ち、外部 TC にジャムして自走させることができます。Mixpre-3II, 6II は 3.5mm ジャックに外部 LTC 信号を入力できます。MixPre-10II は、BNC In にも外部 LTC 信号を入力できます。また、一眼レフカメラなどの HDMI 出力をタイムコードソースに利用できます。録音した BWF ファイルには、これらのタイムコードデータがスタンプされます。フレームレート設定は入力された TC 信号から自動的に識別されます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: USB ポートについて

「USB-C」

USB-C ポートは、コンピュータに接続してオーディオインターフェースやファイル転送に利用できます。また、MixPre-3II, 6II は外部電源ソースとしても利用できます。

「USB-A」

市販の USB キーボード(Windows 用)を接続して、数字やアルファベットの入力やトランスポートコントロールのショートカット操作が可能です。MixPre II はバックアップメディアとして USB メモリーを装着することができます。また、サードパーティ製フィジカルコントローラを接続できます。市販の USB ハブを使って、上記の複数のペリフェラルを同時利用できます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: フィジカルコントローラについて

USB-A ポートに、(Korg NanoKontrol2、Korg NanoKontrol Studio、Novation LaunchControl XL) などのフィジカル・コントローラを接続して利用できます。主に Fader level, Input Gain, Mute, Pan, Track Arm、トランスポートコントロールなどをリモート操作できます。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: Bluetooth 通信について

モバイルデバイス (iOS v8.0 以降、Android v5.0 以降) に、Wingman アプリ (フリーソフト) をインストールすると、Bluetooth 接続で MixPre-Series をリモートコントロールすることができます。レベルメーターの監視、REC、STOP のトランスポートコントロールが可能です。1 台の Wingman は、1 台の MixPre-Series とピアツーピア通信します。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: オーディオインターフェース

「Windows」

Windows10 の標準オーディオドライバーを利用する場合は、2in / 2out (最高 SF96kHz) のオーディオインターフェースとして動作します。(Windows でマルチチャンネルを利用するには ASIO ドライバーに対応したアプリケーションが必要です。)

「ASIO ドライバー」

Windows に MixPre 専用の ASIO ドライバーをインストールして、MixPre-3II は 5in/2out、MixPre-6II は 8in/4out、MixPre-10II は 12in/4out を利用できます。ASIO (v2.9.96.2) は Sound Devices の [web ページ](#) から無料でダウンロード可能です。

「Mac」

Mac OS に標準搭載される core audio を利用して、MixPre シリーズはオーディオインターフェースとして動作します。

「32-bit floating ストリーム」

32-bit floating によるオーディオストリームは、Mac OS 15.15 か、Windows10 (ASIO ドライバー必須) で、対応する DAW アプリケーションにて御利用いただけます。

<https://www.sounddevices.com/32-bit-float-applications/>

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: プラグインについて

Sound Devices 社が MixPre-Series 用に提供する専用プラグインは、Sound Devices 社の web ページにある [Plugin Store](#) から購入できます。プラグインは、AMBISONICS、MIXASSIST、MUSICIAN、NoiseAssist の 4 種です。クレジットカードで購入するとライセンスキー（ファイル）が Email で送られてきます。このファイルで Mixpre 本体のプラグイン機能をアクチベートすれば購入したプラグインが有効化されます。（アクチベートする前の環境に戻すことはできません。）

【御質問リストにもどる】

回答: AMBISONICS について

AMBISONICS プラグイン（有償）とは、3 次元空間の 360 度すべての音声を記録するもので、4 つのマイクカプセルが VR 用にレイアウトされたマイクロフォンを利用します。（MixPre-3II は 3 入力 XLR なので Ambisonics プラグインに対応していません。）MixPre では A-Format、B-Format に対応するだけでなく、収録中にリアルタイムなバイノーラル・モニターも可能です。Input を Ambisonics モードに設定すると、Sennheiser AMBEO のような VR マイクロフォンの音だけを録音できます。（その他のオーディオソースを同時に別トラックに録音することはできません。）SF192kHz、24bit でもご利用いただけます。（32-bit float は未対応）

【御質問リストにもどる】

回答: MIXASSIST プラグイン

MIXASSIST プラグイン（有償）は、L&R ミックスバスへ送られる複数のポストフェーダーのオーディオレベルを自動制御させてノイズを低減させる機能です。ディスカッションなどで複数のマイクロフォンが同じ空間にあるアプリケーションに適したプラグインです。発話していないマイクロフォンの音量が自動減衰されるため、発話している声がクリアに聞こえるようになります。最大減衰量はマイクロフォンの本数によって変わりますが完全にミュートされることはありません。音量変化（エンベロープ）は、発話音量による瞬間的なピークを常に監視して自動的に演算されます。

【御質問リストにもどる】

回答: MUSICIAN プラグイン

「Musician Plugin」

MixPre II シリーズに Musician プラグイン（有償）を導入すると、ミュージシャンの創作活動に特化した Music 機能を利用することができます。

「プロジェクトの種類」

Musician プラグインを導入後、新規プロジェクト作成時にプロジェクト・タイプ（Music Project か Audio Project）を選択（Musician プロジェクトのサンプルレートは最高 96kHz まで）できます。Music プロジェクトのワークフローとは、タイムコードのゼロスタートをベースにしてオーバーダビングを重ねていくものです。トラックに重ねて録音しても、（下層の）wav ファイルはメディアに残っています。MixPre-3,6,10 のハードウェアに関わらず、Music プロジェクトは 12 トラック + L&R ステレオバス で構成されます。L&R のトラックアームの概念はなく、楽曲が完成したら「Render」を実行することで実時間をかけてステレオ wav ファイルにダビングすることになります。レンダリング中にリアルタイムに操作したフェーダーやパンニングは楽曲（ステレオ wav）に反映されません。フェーダー等のオートメーション機能は有しません。

「入力チャンネルとリバーブ」

Musician プラグインでは、楽曲制作中に楽器やヴォーカルマイクのケーブルを抜差しして録音トラックを変更する必要はありません。トラックの Input ソースを画面設定から自由に変更できるデジタル・パッチベイ機能があるからです。また、リバーブが 1 基内蔵されており、複数チャンネルからの音（各チャンネルで送りレベルを調整可）にリバーブ効果を加えることができます。

「トラック数とバウンス」

ハードウェア（レコーダーの型番、Input 数、フロントのノブの数）に関わらず、Musician プロジェクトではトラックが 12 あります。（Musician モードに L&R 専用トラックはありません。）楽曲制作中にトラック数が足りなくなりそうな時、バウンス（複数のトラック・オーディオをミックスして別トラックにコピー）することができます。

バウンス方法：任意のトラックのソースを Bus-L（または Bus-R）にアサインします。そのトラックを Arm し、（他のトラックは Arm を外す）、バウンスされるトラックのフェーダーをゼロ dB 位置に調整します。（録音中のバウンス・トラックは、L/R-Bus へのオーディオ・ルーティングが自動的に解除されます。）録音するとダビング（バウンス）されます。

「フロントノブのフェーダー」

フェーダーは、L&R バスミックスへ送るセンドレベル調整に使用します。しかしどのモデル（MixPre-3,6,10）でも、合計 12 トラックに対してフィジカル・フェーダー数が足りません。それを補うため、LCD 画面に白い枠で表示される Track Bank Selector を利用します。

例えば、MixPre-10 II のフロントパネルには 8 つのフィジカル・ノブがあり、ノブ 1-4 は Ch 1-4 固定です。ノブ 5-8 はアサイナブル方式で、Ch 5-8 と Ch 9-12 を切替えて使用します。後半(5-8)のフィジカル・ノブがどのチャンネルにアサインされているかを確認するには、Track Bank Selector の枠を見て判別できます。バンクを変更するには、LCD 画面で異なるバンクにタッチしてください。

バンクを切り替えた時にノブ・リングがオレンジ色に点滅することがあります。これは記憶されたフェーダー位置と、現在のフィジカル・ノブの位置が違っていることを示しています。記憶されているゲインまでフィジカル・ノブを回転させ、保持ゲインとノブ位置が一致させると、リングのオレンジ色点滅が消えて、その瞬間からオーディオレベルをコントロールできるようになります。

[【御質問リストにもどる】](#)

回答: NoiseAssist プラグイン

NoiseAssist プラグイン（有償）は、マイクロフォンが収録したオーディオ信号に含まれるバックグラウンドノイズをデジタル・プロセッシング処理により低減します。8-Series（2 回線の NoiseAssist）と異なり、MixPre では 1 回線を ISO トラックか L トラック、R トラックに適用できます。NoiseAssist は Remix も利用できますが、リミックスを開始してから NoiseAssist ラーニングがリアルタイムにかかるため、リミックス冒頭の数秒間は期待する効果が得られない場合があります。

NoiseAssist 利用可能環境：

- ・ 24-bit か 32-bit float の SF48kHz で利用可能。（SF96kHz 以上では利用不可）
- ・ Audio プロジェクトの Advanced モードで利用可能。
- ・ Music プロジェクトでは利用不可。
- ・ Re-mix（Re-record LR）で利用可能。

[【御質問リストにもどる】](#)

End